

山本博士・荒木博士講演

皆既日食の重要性・千載一遇の好機は来た !!

本協會主催編輯 京都日食研究會の概況

待望の皆既日食を目眉に控へて、本協會は各觀測隊出發を前にして、最後の日食講演を去る5月6日夕19時より京都大毎會館にて開催した。集る者、本協會員始め大多數の聴衆を迎へ、折柄上洛された水野副會長の挨拶により盛大に開會さる。先づ

荒木博士：「昨年南洋ロ1ソツプ島で學童に内地の市街や雪降りの有様をどんなに説明しても、結局解らなかつた如く、あの皆既日食の美しい景觀は、見たものでなくては解らない。」と語り、即ち「是非本年の又と得難き好機を利用せられたい」と教へ、嘗てロ1ソツフ島で實觀せし皆既の太陽像の種々相を黑板上に描きつゝ、コロナの光プロミネンスの輝きを恰も目前に觀る如く、言葉を綾にして興味深い印象を語られた。次いで

山本博士：「我が本土を通る皆既日食は5年後の1941年に琉球に、臺灣に、またその2年後の1943年2月には又北海道で見られるが、前者は海上通過の爲に、後者はあの北國北海道の然かも寒中2月の早曉の頃であり、そのコンディションたるや本年のものと全々比較にならない」と今回の日食の特殊の意義を教へ、從つて此度の日食こそは今後99年乃至300年を通じて我々に恵まれた唯一の日食觀測の絶好機である」と述べ、更らに「若し此處に地球外の宇宙人として、かゝる日食を見た時こそ如何に興味多く、且つ常には平和境に見ゆる地球上での大異變として見らるゝか。」を平易懇切に説かれ、専門觀測外のアマチュア達による眼視觀測の重要性を語り、最後に日食に關する幻燈映寫をなし、同21時半、遠征を前にして、意義深い講演會是水野副會長の洒脫味たつぷりの閉會の辭により終了した。

——(編輯)——